

介護保険事業会計

審議結果 認定

賛成意見

当市の介護保険料は6年間据え置かれてきたが、保険給付費や利用者が2倍以上の伸びとなっていることや、保険給付費に不足が生じ、借り入れを行っていることから、保険料改定はやむを得ないとして、平成18年3月の定例会で議案が承認され、改定が行われた。

保険料改定にあたり、激変緩和措置が取られ、低所得者対策としての高額介護サービス費なども適正に執行されている。また、地域包括支援センターを創設し、高齢者の介護予防事業などの取り組みが開始されたことは成果として評価できることから、賛成する。

反対意見

介護保険料が45%も値上げされ市民負担が増大した。それまで本人非課税の基準額で年3万4千400円だったのが4万8千円になった。普通徴収滞納額は1千360万円で、低所得者の滞納が前年度より増えている。介護保険制度の改正により、今まで受けていたサービスを受けられなくなった人、経営が成り立たなくなった事業所もあると聞く。施設入所者は、食事代、ホテルコストが導入され、個人負担が大きくなった。

国の負担を上げる、市が一般財源の繰り入れを行うなどして、負担を減らすべき。

下水道事業会計

審議結果 認定

賛成意見

平成18年度からの下水道使用料の改定の結果、使用料収入は7・7%増加し、一般会計からの繰入金金は7・4%減少となり、経営の改善が見られる。

清流地区の平成20年度の公共下水道供用開始に向けての事業や、動物公園通りの雨水管整備の実施、雨水浸透施設の設置費助成による雨水浸透対策等、各種の事業も計画的に執行されている。

今後も事業の計画的執行、維持管理の適正化に努め、一層の経費節減を図り、経営の健全化の推進を望む。

反対意見

下水道料金は平均的家庭で16・25%の大幅値上げがなされ、苦しい市民生活に追い討ちをかけるものとなった。

下水道は汚水を衛生的に処理し、快適な生活環境や清流を保つために欠くことのできない都市施設である。こうした性格を持つ下水道の料金は、受益者負担を理由にして値上げを行うのではなく、税金でまかなうべきものである。

また、財政の厳しさを値上げの理由にあげる議論もあるが、羽村駅西口土地区画整理事業を見直すことが先決である。

審議結果 認定

賛成意見

西口土地区画整理事業は、羽村駅西口地区の抱えている諸課題を解決して、将来に向けて健全な市街地を形成していくこととするものであり、きわめて重要な事業である。

平成18年度は、土地区画整理審議会からの答申を受け、換地設計基準およびその細目を決定した。特に土地権利者の負担軽減を図ったことは、評価できるものである。

決算の歳出面を見ると、業務委託経費、事業用地の購入費、審議会・評価員に要する経費の執行が行われた。また、新たな土地区画整理事務所の開設準備をするなど、所期の目的に添ったものと認められる。

賛成意見

今年11月には遅まきながらも待望の仮換地案の供覧がされようとしている。駅西口側にエレベーターも設置され、利便性は非常に高くなった。

権利者の負担軽減となる公共整備用地の先行取得も、単年度で3カ所、約900㎡で、累積数では54カ所、約2万3千㎡となった。

駅前広場についても、現状の狭い道路において、歩行者と車の接触事故が発生していることから、早期着手が求められている。平成18年度の予算執行も適正であり、事業のスピードアップと、関係権利者が納得できるさらなる説明、対応を望みながら認定に賛成する。

反対意見

西口土地区画整理事業は、多くの住民が反対し、自然環境と歴史的景観に恵まれた現状を生かした修復的まちづくりを求めている。また、長年、先の見えない生活を強いられ、疲労困ぱいしている住民が多くいる。財政面では、一般会計からの繰り入れが1億6千600万円、これに市債が1億7千500万円であった。事業計画書によると、この額は3年後に12億円、4年後は17億円、平成25年度には24億円と、加速度的に増加する。市財政を圧迫することは目に見えている。区画整理の白紙撤回を求める。

反対意見

区画整理事業は、減歩という名のもとで土地を取られ、土地を出せない人は清算金を払わなければならない。また、自宅の建て替えを余儀なくされ借金が増える。住民合意が大前提の事業である。しかし、関係地権者の半数が反対しているにもかかわらず、市は強硬に進めている。財政が厳しいと言いつつ、一般会計から1億6千600万円使われ、借金は1億7千500万円にもなる。平成18年度末の借金の合計は6億9千万円にもなっている。反対の多い事業に多額の税金投入はやめるべきである。市民が裁判を起こすような事業を市が行うべきではない。

反対意見

平成18年度は、一般会計から1億6千600万円を繰り入れ、新たに1億7千500万円を借金して事業を進めようとしているが、多くの関係住民の方々が反対しており、このまま事業を進めていくことに反対である。

少子高齢化が進み、納税人口が減少するこれからの時代に、総額35億円もの再開発事業は、将来人口に大きな負担を残すことになる。事業の規模、手法、予算は見直すべきである。

特別会計決算審査の主な質疑内容

国民健康保険事業会計

質問 保険財政共同安定化事業とは何か。

答弁 国民健康保険事業財政の安定化と保険料の平準化を図るため実施する事業で、高額医療費の給付を都内すべての区市町村が拠出する財源で支払っていくものである。

介護保険事業会計

質問 介護保険制度の改正により、施設介護給付のうち施設入居費や食事代が入所者の負担となった。市はこれをどう受け止めているか。

答弁 施設介護サービス費の中から食費と施設入居費が除かれた。これは在宅で生活している方との格差を是正する観点から行われた。しかし、急激に自己負担が重くなることとならないよう、所得の低い方については補

てんされることになっており、急激な負担増で退所を迫られるという状況はない。

西口土地区画整理事業会計

質問 事業計画が遅れているが、その理由は何か。

答弁 換地設計基準案を土地区画整理審議会に諮問し、時間をかけて審議していただいたことによる。

質問 平成18年度の先行取得用地が例年と比べて少ないようであるが、累積の取得面積と取得個所の数は。

答弁 平成18年度は地区内の事業地等の権利者交渉等に努めたが、結果として3カ所の取得であった。権利者の負担軽減を図るためにも、先行取得用地の取得を進めていく。また、これまでの累積は54カ所で、面積は約2万3千300㎡である。

平成 18 年度会計別決算状況

(単位：千円)

区分	予算現額	歳入決算額	収入率	歳出決算額	執行率	歳入歳出差引額	
一般会計	19,004,755	19,235,461	101.2%	18,667,543	98.2%	567,918	
特別会計	国民健康保険事業	5,065,727	5,006,364	98.8%	4,895,374	96.6%	110,990
	老人保健医療	2,900,465	2,862,350	98.7%	2,846,130	98.1%	16,220
	介護保険事業	1,988,839	1,980,738	99.6%	1,917,797	96.4%	62,941
	羽村駅西口土地区画整理事業	490,242	347,242	70.8%	302,230	61.6%	45,012
	下水道事業	2,305,930	2,312,417	100.3%	2,274,952	98.7%	37,465
水道事業会計	収益的収入	1,084,309	1,084,122	100.0%			収益的収支 67,528
	収益的支出	1,031,582			1,016,594	98.5%	
	資本的収入	11,285	11,284	100.0%			資本的収支 △ 464,827
	資本的支出	485,814			476,111	98.0%	

※資本的支出額に対し不足した資本的収入額は、過年度損益勘定留保資金などで補っています。

●●● 行政視察報告会のお知らせ ●●●

日時：12月14日（金）午後1時30分～4時30分（予定）

会場：コミュニティセンター

※当日直接会場へお越しください。

市議会では、市政の発展に役立てることを目的に、先進地の行政視察を行っています。

今年は総務委員会・経済委員会・厚生委員会の各委員会がそれぞれ担当分野について視察をしてきました。その調査・研究の成果を発表する報告会を行います。どなたでもご覧になれます。多くの方のご来場をお待ちしております。

報告内容（予定）

◆総務委員会

- (1)「航空自衛隊千歳基地の概要等について」航空自衛隊千歳基地
- (2)「議会基本条例について」北海道夕張郡栗山町
- (3)「アレルギー給食について」北海道勇払郡厚真町

◆経済委員会

- (1)「小布施町のまちづくりについて」長野県上高井郡小布施町
- (2)「自立した村への取り組みについて」長野県下水内郡栄村
- (3)「市民協働によるまちの再生について（空きビル等再生事例の視察）」(株)まちづくり長野（長野県長野市）

◆厚生委員会

- (1)「知的障害児支援の取り組みについて」滋賀県立近江学園（滋賀県湖南市）
- (2)「認知症啓発推進事業について」滋賀県東近江市
- (3)「環境学習について」兵庫県西宮市

はむらで見られる 野鳥



モズ

モズの繁殖期は他の野鳥より早いため、9月頃から縄張り確保のために、キチキチ、キィーと鋭く、いわゆる「高鳴き」をします。枝先にとまって尾羽をくるくる回すのも特徴です。また、他の鳥の鳴きまねもうまく、メジロ、ウグイス、シジュウカラ、セキレイなどレパートリーが広いことから、漢字で「百舌」と書きます。写真は郷土博物館近くを縄張りにしているオスで、「牛柵」ととまって、にらみをきかせているところです。

編集後記

9月議会は、「決算議会」と呼ばれている。昨年度は税金がどう使われたのか。その結果、市民にどう役立ったのか。そのことを明らかにして、今後の市政に生かしていく、という大切な役割をもっている。

そして、新人議員にとっては、市政の全体を見渡して審議する初めての議会となった。ぶ厚い書類に並ぶ数字に目を通すうち、今の市政のありようが、具体的な手ごたえを持って感じとれたような気がした。そして、市民の願いにびったりと寄り添った市政を一步でも前へ、との思いで審議をした。

熱気ある議場の様子が本号で少しでも伝わればと思う。

（鈴木記）

《編集委員》

瀧島 愛夫 山崎 陽一
鈴木 拓也 大塚あかね
西川美佐保 濱中 俊男
中根 康雄